

令和4年度第1回名取市協働事業審査会会議録

- 1 日時 令和4年6月2日(木)13時30分～17時20分
2 場所 議会棟3階 第1・2委員会室
3 出席者 秋月委員長、小平副委員長、林委員、小畑委員、菊池委員、青木委員
事務局:浅野課長、渡邊課長補佐兼係長、川上主幹兼係長、浅野主事、八巻
欠席者 中島委員
4 会議概要 下記のとおり
-

<委嘱状交付>

- 1 開会 進行:浅野課長
2 委員長・副委員長の選出
3 会議の公開
4 審査説明
5 議題
第一部
(1)平成31年度採択(令和3年度実施)名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションについて
(2)平成31年度採択(令和3年度実施)名取市協働提案事業評価審査
第二部
(3)名取市協働提案事業担い手育成型(入門コース)採択審査
6 その他
(1)令和3年度実施した名取市協働提案事業担い手育成型(入門コース)の報告会について
(2)令和4年度実施名取市協働提案事業の実施状況について
(3)令和4年度募集名取市協働提案事業について
7 閉会
-

<委嘱状交付>

事務局

本日は、お忙しい中、令和4年度第1回名取市協働事業審査会にご出席いただきましてありがとうございます。開会に先立ちまして、「名取市協働事業審査会委員」の皆さまに副市長の我妻より辞令及び委嘱状の交付をいたします。お名前をお呼びしましたら、その場でご起立いただき、お受け取り願います。

<辞令及び委嘱状の交付>

これをもちまして、辞令及び委嘱状の交付を終わります。

1 開 会

事務局

改めまして、ただいまより、令和4年度第1回名取市協働事業審査会を開会いたします。開会にあたりまして、副市長の我妻よりご挨拶を申し上げます。

副市長

本日は、大変お忙しいところ出席いただき、ありがとうございました。また、日頃より、市政運営に対しまして、特段のご理解とご協力を賜り、この場を借りて御礼を申し上げます。ただいま、6名の委員の皆さまに「名取市協働事業審査会委員」として、ご委嘱を申し上げましたが、任期は2年間ということになりますので、ご協力・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。委員の皆さまには、色々ご苦勞をおかけいたしますが、市民協働のまちづくりの観点からも是非忌憚のないご意見をいただきまして、より良い協働事業となりますよう、よろしくご協力のほどお願い申し上げ、挨拶いたします。

事務局

ありがとうございました。本日の会議につきまして、あらかじめ、1号委員の中島様から欠席される旨のご連絡がありましたので、ご報告いたします。本審査会の会議は、名取市協働事業審査会設置要綱第5条第2項により、委員の過半数が出席しなければ開くことができません。本日は、7名中、6名が出席しており、過半数を満たしておりますので、会議成立といたします。

次に、委員長、副委員長の選出に移ります。今回は、第1回の委員会となりますので、委員長選出にあたり、仮議長を選出して進めて参りますが、仮議長を我妻副市長にお願いして進行いたします。

2 委員長・副委員長の選出

副市長

それでは、委員長の選出についてですが、「名取市協働事業審査会設置要綱」第4条第2項により、「委員長は、委員の互選によって定め、副委員長は、委員のうちから委員長が指名する」と規定されています。このことから、まず、委員長を互選により選出したいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

事務局案として提案はありますか？

事務局

事務局案を説明いたします。これまで、委員長選出については、1号委員の学識経験者の方に委員長をお願いしておりました。このことから、昨年度まで委員長をしていた秋月委員に引き続き委員長とする案となります。お諮りお願いいたします。

副市長

ただいま、事務局から説明がありましたが、委員の皆さまから異議がなければ、委員長は秋月委員にお願いしたいと思いますが、いかがですか。

<異議なし>

それでは、秋月委員に委員長をお願いいたします。

ただいま、委員長が決定いたしましたので、仮議長職を辞させていただきます。ここからは、委員長へ会議の進行をお願いしたいと思います。

事務局

ありがとうございました。副市長には、この後次の公務がございますので、ここで退席させていただきますことをご了承願いたいと思います。

事務局

それでは、ここで委員長からご挨拶をいただきたいと存じます。

委員長

皆さまのご協力を賜りながら本審査会を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。それでは、これからは、私が進めます。

議事に入る前に、「副委員長の選出について」であります。設置要綱第4条第2項により、委員長が指名することになっておりますので、私の方から指名いたします。これまで、2号委員の名取市企画部長に副委員長をお願いしてきた経緯がありますので、小平委員にお願いしたいと考えますがいかがでしょうか。それでは2号委員の小平委員にお願いします、よろしくお願いします。

3 会議の公開

委員長

それでは、早速、次第に沿って進めてまいります。次第の3会議の公開について、本審査会を公開とするか、非公開とするか及び会議録記載の方法について事務局より説明をお願いします。

事務局

はじめに、会議の公開・非公開について説明いたします。名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条第2号の規定により、本審査会につきましては、公開の対象となっております。また、第4条の規定により、会議は原則公開ですので、今回の会議も含め、今後2年間の会議について、そのようにいたします。ただし、委員及び事務局で実施する「評価審査」「採択審査」については、特定の団体に関する情報等を含めて協議されることとなりますので、その部分については非公開としたいと考えております。

2点目、会議録記載の方法について説明いたします。

会議録は会議終了後に速やかに作成し、委員の皆さまにご確認いただいた後、総務課情報統計係を通じて市ホームページにおいて公開いたします。会議録への発言者の記載方法は、これまで「委員」、「団体」という形でこれまでも作成してきたところですので、引き続き「委員」、「団体」という記載方法でよろしいでしょうか。以上、ご提案いたしますので、ご協議くださいますようお願いいたします。

委員長

それでは、お諮りします。まず、1つ目、会議の公開・非公開について、只今事務局より説明がありましたとおり、会議は原則公開とし、ただし、委員及び事務局で実施する「評価審査」「採択審査」については非公開としてよろしいでしょうか。

それでは、原則公開とし、ただし、評価審査、採択審査は非公開とします。

次に、2つ目、会議録記載の方法について、只今事務局より説明がありましたとおり、原則「委員」「団体」としてよろしいでしょうか。

それでは、原則「委員」「団体」とすることとします。

それでは、本日の審査会の全体の流れと、次第4、報告プレゼンテーションの審査説明について事務局から説明をお願いします。

4 審査説明

事務局

それでは、審査会の進め方について説明いたします。緑のファイルの次第をお開き願います。次第書の5、議題です。はじめに、(1)平成31年度採択、令和3年度実施の協働提案事業 8団体による実施報告プレゼンテーションを行います。各団体入れ替え制により行い、1団体15分程度で報告・質疑応答・準備移動する予定で進めてまいります。報告には、協働する課も同席いたします。報告プレゼンテーションの後、休憩をはさみ、次第書の(2)の協働提案事業評価審査にすすみます。審査方法は、後ほど改めて説明いたします。

次に、次第書の(3)、名取市協働提案事業担い手育成型(入門コース)の採択審査を行います。入門コースは、今回2団体から提案をいただいております。こちらは、事前に書類にて審査していただいておりますので、集計結果を確認いただきながら審査をお願いいたします。なお、提案事業に係る協働する課がオブザーバーとして同席いたします。

次に、報告プレゼンテーションの審査方法について説明いたします。緑色のファイルの(赤のインデックスで「第1部 実施要項」と付けているページをお開き願います。)令和4年度第1回名取市協働事業審査会実施要項をお開き願います。中段に記載しております、5 審査方法をご覧ください。(2)の審査項目①から⑤までの5項目を評価の視点として審査をお願いいたします。採点については、(2)採点方法をご覧ください。各項目5点満点として評価をお願いいたします。

お手元に配布しております、Aのファイルをご覧ください。

本日、報告プレゼンテーションを行う8団体分の評価表が入っております。

その評価表に、団体ごとに評価の視点①から⑤までの5項目について5段階評価していただくとともに、下にあります「評価コメント」の欄にコメントやアドバイス等のご記入をお願いいたします。

質疑応答の時間や団体の入れ替えの時間などに評価表にご記入いただき、全てのプレゼンテーションが終わった時点で、評価表を回収させていただきます。

なお、報告プレゼンテーションが終わりましたら、休憩時間を設け、その間に事務局で全体集計を行いたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

事務局

それでは、令和3年度実施名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションに入りますので、会場のご移動をお願いいたします。会場は第1・第2委員会室となります。

5 議題

(1)平成31年度採択(令和3年度実施)名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションについて

<プレゼンテーション>

団体:リバイブ名取21

協働する課:都市計画課

リバイブ名取21は、増田の通行人の減少を何とかしようとイベントやまちづくりの勉強会を行っている団体です。その中で、イベントで活性化を図ろうと挿すだけでLEDを光らせるピカボードを発明し、光のストリートアート展を平成10年から実施しております。始めた当初は暗いLEDだったのですが、最近では明るいLEDになり、それを使っています。今回の協働提案事業は、平成30年度に続き採択されたもので、前回は補助で採択されましたが、今回は委託として採択されました。今回の事業の内容は、中心市街地の活性化や名取市のまちづくりのPRを目的として光のストリートアート展を行うものです。光のストリートアート展を実施した期間は、昨年12月16日から1月6日です。本来は、増田の防災広場で行うことにしていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小開催とし、名取駅の自由通路東口と西口のみピカボードを設置しました。このピカボードは、増田の子ども会とボーイスカウトや尚絅学院大学のピカボード愛好会の方に作っていただいたものです。昨年8月に材料を調達して、11月に補修をして、12月に展示しました。線一本で配線できますので、簡単に作って設置できます。東口には2枚のピカボードを設置し、1枚は尚絅学院大学の学生が作り、もう1枚は以前増田の子ども会が作ったものを再利用しています。西口は、3年前に白石工業高等学校の電気科の生徒が作ったものと、一昨年にボーイスカウトの子ども達が作ったものです。いつもは点灯式等を実施していましたが、イベントの縮小ということで、PRを最小限にして実施しました。一回止めてしまうと続けることが難しくなるので、縮小しても続けることに価値があると思い実施しました。事業の成果としては、冬の風物詩と言われるようになってきているので、続けられてよかったです。また、ピカボードを見ると冬になったと感じると感想をいただき、増田地区の賑わいに寄与することができたと思っています。工夫した点は、コロナで感染拡大に気を付けながら、実施する方法を探ったことと、古いピカボードの補修をして再利用したことです。そのため、収支については、イベント縮小により足場代がかからず、前年に材料を調達していたことから、補修のための収支となっております。改善すべきことは、ピカボードの知名度が低いこと、住民参加を拡大していくこと、スポンサーを見つけることです。団体の展望としては、行政と協働しながら今後も続けていけたらと思います。今年度は名取市で足場代を予算化していただくことになり、実施する予定です。これも協働提案事業の成果であると思っています。増田以外ではイオンモールや仙台空港でも実施しておりますので、もっとピカボードを普及し、まちづくりの活動をしていきたいと思っています。

<質疑応答>

委員:冬の風物詩と言っていましたが、冬限定なのはなぜですか。夏にはできないのですか。

団体:夏でも実施できます。増田の活性化のために実施しているので、人通りが少ない冬の時期に実施することでより効果があると思い冬に実施していました。また、商店街で歳末の売り出しに合わせてイベントを実施する意味もあります。この事業を始めた時は、LEDがまだ暗かったため、早く日が暮れる冬が良いと考えておりましたが、今のLEDは昼間でも見えますのでいつでも実施できます。

委員:改善すべきところに、住民参加を拡大すると書いていますが、どういう時に参加をしていただきたいのか、その働きかけなど教えてください。

団体:町内会や商店街に制作のご協力いただいていたのですが、大変だということから参加者が減ってしまいましたので、それを復活させ、みんなが集まって作る活動にしたいです。

委員:作る過程に参加し、楽しく準備ができるとみんなで盛り上げているという実感が得られ、さらに口コミ等でその場に行ってみたくて広がっていくと思います。

委員:スポンサーを探しているということですが、スポンサーのメリットはどのようなことですか。

団体:イベントの時に名前を出せることが一番のPRだと思います。また、会社で何かをされるのであれば、技術提供できます。

委員：都市計画課へお伺いします。都市計画の観点からこの事業をどのように思っているのか教えてください。

協働する課：中心市街地の活性化に重きを置いており、どのようにしたら人が来るのかを考えています。このような提案で来ていただくことよりまちが活性化し、広がりができれば良いと思っています。

委員：中心市街地とはどの辺りのことですか。

協働する課：増田や旧4号線の辺りです。

団体：名取が丘やってみ隊

協働する課：生涯学習課

私たちの団体は、公民館の講座から立ち上がり、自分が住んでいる街を自分の足で歩いてみたいという思いを持っているメンバー21名で行っております。本来は、防災のことを実施する計画でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施内容を変更し、子どもから大人まで交流できるような街探検とマップ作成を実施しました。名取が丘地区は、高齢化が進んでいますが、若い世代も増えていきますので、その方たちと一緒に名取が丘の歴史を見ながらまち歩きをする内容に変更し、その後地域の古墳と危険箇所等をまとめたマップを作成しました。メンバーで6月ごろ下見をして、11月に実施しました。参加者を募集した結果、30人以上の応募があり、隊員も含め約50人の参加となり、地域の皆さんと子ども達が一緒に探検して、世代間交流ができました。コロナ対策として、マスクやソーシャルディスタンスをして、参加者を4つのグループに分け、探検する道順を工夫しました。参加された子ども達からすごく楽しかったという感想があり、実施後にも、参加したかったという人たちもいました。コロナがなければ、もっと大勢の方に参加していただきたい企画でした。名取が丘の古墳と危険箇所等をまとめたマップは、名取が丘地区に全戸配布しました。高齢化と言いますが、まだまだできることはあると思いますので、これからもメンバーで力を合わせて、自分たちの住んでいるまちを、自分たちの手で作り上げていきたいと考えております。

<質疑応答>

委員：今回名取が丘一丁目の古墳や危険箇所を調べて、その場所がわかるようにマップを作り、名取が丘全戸に配布したとのことですが、ほかの二丁目から六丁目、箱塚に広がる可能性はあるのでしょうか。

団体：今年度は、二丁目中心に街歩き体験を予定しております。

委員：課題で、地域の住民の方を巻き込みながら、なお一層活性化させたいということですが、この活動を始める前は何人で活動を始め、終わった後会員がどのぐらいに増えたとか、活動の成果を教えてください。

団体：隊員は21名で始まり、仕事で参加できない理由から1名が抜けましたが、このマップを見て新たに加わった方が1名おりました。これから、二丁目や各丁目のまち歩きをして、声をかけて増やしていきたいと考えております。

委員：このマップを作られる時の大変だったことやこの形に決まってくる中で市と役割分担をしたこと等のエピソードはありますか。

団体：隊員が事前に下見して、2・3回会議をして、その都度修正しながら進めました。

委員：形になる前の話し合いをしている時が一番楽しく、地域のことをよく考える時間だったのではないかと思います。それがマップになり、皆さんが楽しく取り組んでいることが滲み出ていると思いました。

団体：私たちがわからないところは、プロの方に説明していただいて、自分たちで資料を参考にしながら

ら、このようなマップを作成しました。

団体:NPO 法人仙台傾聴の会

協働する課:生涯学習課

震災から11年になりますが、当会はこの11年間継続して被災者と関わりを持っています。震災当初から宮城県医師会の依頼を頂いて、名取市内の避難所から仮設住宅を経て、現在は、美田園北集会所や増田公民館、高柳東公営住宅、高柳集会所で傾聴カフェを開催しております。被災者の心の支援は、まだまだ必要であると思っており、当会は今後もこの活動を継続していく予定です。傾聴とは、相手の話を否定せずにありのままを受け止めて、共感的に一生懸命聞くことです。相手を尊重して存在を認めるという傾聴のスキルを身につけることで、地域の繋がりができ、支え合う社会の実現が見込まれます。家庭や学校、職場で活用でき、生涯学習の場や子育て支援の場、ボランティア促進にも繋がります。高齢者の生きがいになります。そのため、一人でも多くの名取市民に学んでいただきたいと考え、講座を開催しました。講座は、傾聴を知っていただく機会としての傾聴入門講座と活動の担い手としての傾聴ボランティアを育成するための傾聴ボランティア養成講座です。入門講座は、6月から8月まで名取市内の全公民館11ヶ所で1.5時間の講座を実施し、39名の参加者でした。内容は、会話を提示して、普段の会話と傾聴的に聞く会話の違いの体験です。初めて傾聴的に話を聞くことを知った方がほとんどで、今後家庭や友達、職場で活かしていきたいという感想をいただきました。傾聴ボランティア養成講座は、昨年9月20日、25日、26日の3日間、名取市市民活動支援センターで開催し、3日間で全12時間の講座を実施しました。講座は、初心者にもわかりやすく、傾聴の基本から実践のロールプレイを盛り込み、認知症について学び、グループワークを行いました。日常生活に活かすことができ、対人関係や自分自身の心の成長の役に立つという声が聞かれました。また、毎月第3日曜日に傾聴サロンの個別対面相談を名取市市民活動支援センターで実施しました。4月から1月までの集計で17名の方の相談を受けました。名取市の広報を見て来た方がほとんどでしたので、市と協働した意義がありました。事業の成果としては、多くの名取市民に傾聴を知ってもらう機会となり、傾聴のスキルを持つ人材の育成に繋がったと思っております。傾聴のスキルを身につける人が増えることで、ゲートキーパーの増加に繋がり自殺予防に繋がると思います。改善すべき点は、公民館の参加者が少なかったため、曜日の設定を変更する必要があると思っております。今後の展望は、今、コロナの為に鬱になる方が多いので、傾聴サロンと電話やメール相談を充実させていきたいと考えております。

<質疑応答>

委員:入門講座から養成講座に進む方は、どのような方でしょうか。

団体:入門講座を受けて、さらに詳しく学びたいという方々が養成講座に来られます。

委員:その方々は、傾聴のスキルを身につけて傾聴サロンのスタッフになったのですか。

団体:傾聴を勉強したいという方は養成講座を受けますが、傾聴サロンは個別対面相談で、悩みを抱えている方が個別に相談するところなので、なかなか個別相談を対応できるところまでは結びつかないです。しかし、自分が誰かに聞いてもらって良かったという体験をしていると、自分も人の話を聞いてあげたいという思いがあるようです。

委員:サロンだけで相談対応できない場合もあると思うのですが、その場合は他機関の連携先としてどのようなところがあるか教えてください。

団体:当会だけで全て解決するわけではないので連携しております。保健センターや名取市で相談の窓口になっているところ、DVの専門のところや借金問題等は法テラスなど専門の弁護士さんに繋がっています。

委員:相談を対応できる方は何人くらいいるのですか。

団体:会員が200人ほどいますが、対応できる専門的な知識を持っているのは15人くらいです。

その人たちは各地で相談を受けています。

委員:生涯学習課さんはどのような協働をしたのですか。

団体:各公民館で講座だったので、公民館の予約の調整をしていただきましたし、チラシを作るときに校正していただき、配布していただきました。

団体:NPO 法人イー・エルダー東北支部

協働する課:AIシステム推進課、介護長寿課

最近色々な行政サービスがデジタル化して効率化を図ろうとしています。高齢者の間にもスマホが普及しておりますが、スマホを使いこなせない高齢者は取り残されていくのではないだろうかという心配があります。そこで、少しでもお役に立ちたいということで、スマホ初心者向けのスマホ講座と、スマホをある程度は使えるけれど、もっと深く理解して、普段の生活に役立てたい方のためのスキルアップの講座を開催しました。スキルアップ講座は、この講座の講師やサポーターの養成も含めて実施しました。講師が「こうしてください」と言っても、受講者は高齢者なのですぐ理解することは難しく、同じことを質問したり、色々な質問があるため一人ひとりの質問に丁寧に対応することに講師やサポーターは苦勞しました。また、皆さん機種もメーカーも違い、古い機種をお持ちの方もいらっしゃいます。色々な状況があるため、我々も勉強して、納得していただけるように指導をしました。実施内容としては、毎月1回で3ヶ月間、それを1コースとして年間3コース行いました。初心者向けのスマホ講座は、基本的な操作や初歩的なアプリの使い方について指導し、スキルアップ講座は、色々なアプリの使い方について理解していただく内容です。受講者が、指導する立場になり、高齢者が高齢者を教えるサイクルを作ることができると事業が発展すると考えておりました。事業を通して感じたことは、スマホを使わずに困っている方がたくさんいて、教えてくれる方がいないということです。スマホの使い方を教える機会を多くしていく必要があると思いました。

<質疑応答>

委員:1回では覚えられない場合はどのように工夫されたのですか。

団体:時間も限られており、1回2時間の講座なので、我々が作ったテキストを使って一通り講座を進め、休憩時間や終わった後に、質問に対してできる限り分かりやすく説明しました。

委員:1コースの3回の講座は、同じ方が毎月受講されるということでしょうか?

団体:そうです。

委員:対応する方は、1回何名くらいで対応されていたのですか。

団体:説明する講師は1人、サポートするサポーターが3人ないし4人です。

委員:参加人数は、同じ方が3回参加しているということで、延べ数という理解でよろしいでしょうか。

団体:そうです。

委員:受講者数の推移を見ると、各コースの1回目が多く、2回目や3回目が少なくなっていますが、これは1回目受けて、講座についていけないという人がいたのでしょうか。

団体:そのような場合もあります。

委員:そのような方にはケアをしたのですか。1回目で難しいと感じ、2回目に来ない場合についてはどのようにされたのですか。

団体:なるべく来てくださいと言っていました。コースの途中でワクチンの接種の日程と重なり参加が難しい場合もありました。

委員:機種や経験が違う方たちに、特に重点的に教えるポイントはあるのでしょうか。

団体:講師がテキストに従って説明する時は、皆さんに同じように説明しますが、個別に質問がある場

合は、機種やどの程度理解できるかを経験から見極めて、その方が分かるように説明しています。難しい言葉で説明すると、質問した方がついていけなくなるので、顔色を見ながら、この方はここまで分かっているな、この辺から難しくついていけないなど見極めながら進めるようにしています。高齢者向けの場合は、ここが普通の講師と違うところだと思います。

団体:キラキラパルク増田西

協働する課:クリーン対策課

私たちは、共に学び共に認め合い、笑顔あふれる楽しい地域を作るという理念のもとに、色々な活動をしてきました。具体的な活動の内容は、増田川の清掃活動、増田川で遊ぼうガサガサ体験、サケの観察会と紙芝居の上映、増田川の散策です。私達は、名取市内だけを流れる増田川がごみで汚れていること、今子ども達が川遊びなど自然にふれる機会がほとんどなくなっていること、子ども達が増田川の良さを知らず自然の大切さを実感できないこと、増田川の水環境が悪化し次世代に繋いでいくことが難しいことが課題であると認識しております。そのため、①増田川の清掃、②ガサガサ体験、③出前授業、④サケの観察会を実施しました。①増田川の清掃は、従来は川の近くにお住まいの方に参加を呼び掛けていましたが、コロナのため呼びかけをせず、会員だけで実施しました。たくさんのゴミを拾い河川環境の改善に寄与したと思います。増田川の清掃活動後は、横断幕を2か所に設置し、掃除したことをアピールし、意識付けをしております。その結果、ゴミが少なくなってきました。②ガサガサ体験は、参加者を募集したところ60名の申し込みがありました。残念ながら当日台風で天候が悪かったため中止しました。中止のため成果はありませんが、告知後すぐに定員に達したことから認知度が上がり、期待も高かったと思います。③出前授業は、増田西小学校3年生を対象に、体育館で3台の紙芝居を用意し、同時に3クラスに紙芝居を実施しました。この活動は、今年度マナビイに登録することができました。④サケの観察会は、23名の応募がありました。サケの一生という紙芝居と、サケが遡上する経過を話し、実際にサケがのぼってくる増田川を散策しました。増田川を散策し、身近に感じてもらうことができたのですが、残念ながらサケの遡上を見ることはできませんでした。これは自然相手なので、仕方がない結果です。私たちの今後の活動としては、今後も増田川を中心にした活動を継続していくということ、それから、新規会員の加入と資金確保を図りながら、地域の世代間交流を進めていきたいと考えています。増田川をもっと知り、学び、活動に活かす努力を惜しまず活動していきます。

<質疑応答>

委員:ガサガサ体験の中止は、非常に残念だと思います。前に見せていただいた時は、子ども達が喜んで川の中の生物を獲ったり、ずぶぬれになって楽しそうに活動しており、非常に良い活動だと思っておりました。申し込みがすぐ定員に達したとのことですが、増田西地区以外からの申し込みも多かったのか、また、会員を新しく募る際に増田西地区以外からの申し込みを拒まず受けているのか教えてください。

団体:私たちの活動は8年目になり、少しずつ増田西地区以外の名取市全域から子ども達が集まっています。また、私たちの活動にボランティアとして、中学校の科学クラブの子どもや尚綱学院大学の学生が毎回参加しており、広がっています。メンバーも増田西地区以外からも加入しておりますので、口コミで広げて、これからも継続していきたいと思っています。

委員:ガサガサ体験とサケの観察会に関して、どちらもその日程や天候の関係で実施できないということで、今後の改善として、雨天の時は延期等を検討していくのか、また、ここ数年のサケの遡上の状況について教えてください。

団体:遡上につきましては、去年海でサケがとれない状況があり、その影響もあつたのか見ることが出

来ませんでした。それまでは、数は少なくなっていますが、6～10匹くらいは見る事ができました。去年の反省を踏まえ改善策として、今年はガサガサ体験の順延日を設けています。それでも難しい時には、中止しなければならないと思っています。

団体：去年は前日に私自身が川に入り、また雨が降ったら難しいと判断し、中止にしました。

委員：協働する課としてのパートナーシップはいかがでしたか。

協働する課：クリーン対策課では、主にイベントの広報をお願いされ、事前に打ち合わせをし、文書だけではなく、写真を載せるなど、より周知できるようアドバイスしました。募集後すぐに定員に達したということと増田西地区だけではなく名取市全域で申し込みがあったということで、効果があったと捉えております。

委員：清掃のところは、行政は連携したところがありますか。

団体：ゴミ袋の提供と集めたゴミを回収していただいております。

団体：結の会

協働する課：学校教育課

5年程前に、中学校の家庭科の教科書の指導要綱が変わり、教科書の中に浴衣が入りました。浴衣の指導が入りましたが、今の家庭科の先生はなかなか馴染めないと思い、先生の応援ということで始めました。浴衣の着付け体験は、名取市は一中、二中、みどり台中学校で実施しました。学校で2コマの授業時間をいただき、男子女子全員が補正をしながら浴衣着て、帯結びをします。また、和服での挨拶の仕方、お辞儀の仕方を教えています。皆さん帯が結べないので指導に時間がかかりますが、子ども達は興味津々です。そのため、今まで活動を続けています。和装は、日本の文化なので、浴衣ぐらいは着られるようにと思って指導しております。団体としては、着付けの指導ができるよう人材の育成をしながら、中学校で着付けの体験を実施していますが、なかなか会員の確保が難しいです。1クラスには、男子と女子に分かれて実施していますので、6人くらい人数が必要になります。

学校の先生方の体験学習があってもよいと思いながら子ども達に指導していますが、名取市全部の中学校で教えたいと思っています。着付けは体力が必要で、子ども達5～6人を一人で教えるのは力仕事です。昨年度は13日で、1回2時間ずつ指導して、488人ほど教えました。

協働する課

今年の体験活動と一緒に参加させていただきました。今、子ども達は生きる力を育む教育、生き抜く力を育む教育が大切となっており、今回の体験活動は、子ども達にとって興味深い体験活動だと思いました。子ども達はいつも座学なので、2時間の体験活動はとてもしきいきとしていました。一中の生徒の感想文を見せていただきましたが、子ども達が良い体験をさせていただいてありがとうございましたという感想文を書いていました。このような活動は、学校生活の中で大事な活動の一部だと改めて感じました。会員の方と学校で時間を調整しながらの体験活動ということで、お互いがウィンウィンの活動だったと思っています。

<質疑応答>

委員：浴衣の着方と礼儀を教えて、子ども達の習得状況はいかがですか。

団体：子ども達は着付けをして、全体写真を撮ったりして、充実している表情で喜んでいると思います。理解して身につけていると思います。

委員：浴衣を着たことがない子どももいると思うので、大変貴重な機会を与えていただいたと思います。

委員：浴衣は団体で準備しているのですか。

団体：私が所持している浴衣になります。

団体:認定 NPO 法人地星社

協働する課:なとりの魅力創生課

市の魅力を発信することにおいて、正確性や公平性が重要であることから、画一的な情報発信になってしまうという行政課題が出されておりました。それに対して、我々は、市民自身が名取の魅力に気付く、それを伝えるスキルを身に付けて情報発信できるよう市民ライター講座を実施しました。定員10名に対して多数の応募があり、最終的に受講者12名、他に聴講者という形をとって実施しました。最初は、地域の魅力を再発見ということで、ワークショップを実施しました。名取の地図を大きく4つに分けて、地図にシールでマッピングしながらどのような魅力があるのか受講者同士で出し合いました。2回目は、取材の仕方や記事の書き方、3回目は写真の撮り方の講座です。それぞれプロの講師から学びました。その後、受講者から出た魅力の中から取材先を選定し、二人一組で6ヶ所に取材に行きました。4回目は、情報の整理の仕方として、取材で得た情報をどうまとめるのかを学び、原稿を書いて添削し、ブラッシュアップを行ないました。事業のまとめに地域ライター講座の発表会を開き、原稿を発表しました。最終的に出来上がった記事は、名取市のホームページに掲載されております。受講者の気づきがあり、読者も面白く感じると思います。また、この講座と並行して、フェイスブックで月平均2回の情報発信を行い、11カ月で22個の記事を出しました。その際、協働する課には、名取の歴史や文化をはじめとして、たくさんの情報を教えていただき、助けていただきました。事業の成果は、名取の新たな魅力の発掘について市民目線で魅力を情報発信できたこと、実際に取材に行くことで新たな魅力に気づいたことです。また、受講して名取に愛着が湧いた受講者もいましたし、読者も新たな地域の魅力を知って愛着を感じたかと思います。講座をきっかけに、他の地域活動や公民館での活動、NPOの活動に関心を持つ受講者や、地域ライターの活動を継続したいという受講者により、名取の魅力を伝える地域ライター部という自主的な活動に繋がりました。今後は、このような活動をサポートして、繋げていきたいと考えております。

<質疑応答>

委員:受講者は主にどのような方ですか。

団体:年齢層は20台後半ぐらいから60~70代と幅広いです。

委員:ホームページで成果を見ましたが、記事にするにはどの程度の添削しているのですか。

団体:講師の添削は結構しています。しかし、添削し書き直し、さらに添削を繰り返すことで、本人がスキルアップし、最初に比べるとだいぶレベルアップしていると事務局でも見ておりました。

委員:受講して終了ではなく、自主的なサークルに繋がったことは、大きな評価だと思います。何名で活動し、どのように活動していくのか教えてください。

団体:自主的なサークルは、だいたい5名ぐらいです。助成金を申請して、講師を招いて講座を開くというものです。そこで新たな参加者を呼び込むことで、人数を増やしていきます。

委員:名取市以外のフィールドを含めて、色々な媒体で、市民ライターとして活躍できる可能性があると思うので、多様な活動ができる方が、ここから生まれていくことが楽しみです。

委員:受講者は名取の方ですか。

団体:名取の方が多数ですが、一部亘理の方や仙台の方もいます。元々名取に親しみがあり、よく来ていた方が多いです。

団体:NPO 法人みちのくトレイルクラブ

協働する課:グリーン対策課

本事業は行政提案型事業で、名取市広浦から五社山までの増田川沿いのマップを作成し、身近な自然や地域の魅力に触れる機会を創出する為のルートマップの作成というテーマがグリーン対策課から出され、実際にそれを形にするというものです。事業に進めるにあたっての課題は、市内の団体の方が増田川沿いで見られる自然景観や橋の名前などを掲載した流域の資料を既に作成していましたが、実際に歩く上で、どこからどこまでが何キロなのか、どのくらい上っていくのかという情報が不足していたため、今回の事業では、次の作業を行いました。1つ目に現地視察で、実際に増田川沿いをGPSの情報を拾いながら歩き、ルートの提案をしました。2つ目に情報収集と整理で、歩く上で必要なお手洗いやコンビニエンスストア等について現地調査を実施し、さらに足りない情報について机上調査を実施しました。また、我々が運営を担っている環境省が策定したみちのく潮風トレイルというマップが歩くために必要な情報を簡素にまとめているので参考にしました。写真やイラスト等のその他の情報が多くなりすぎると、かえってルートの視認性が悪くなりますので、出来る限りシンプルな内容にまとめました。3つ目にデザインの作成ということで、今回の予算の中でやりくりするために大まかなデザインはこちらで検討し、デザイナーに依頼しました。4つ目に掲載イラストや画像の収集で、昨年度別事業で市内の五社山マップを仙台高専が作成されていたので、統一性を持たせるという意味でそちらに依頼しました。画像は、調査をする中で、我々が撮影したものや、グリーン対策課から提供いただき使用しています。5つ目に地域団体のヒアリングということで、市内で活動されている団体にヒアリングを行ないました。サケに関する説明書きや増田川まめ知識の「たくさんの橋」というコラムは、ヒアリングで得られた情報を活用しています。最終的に名取市がマップの発行元という形になるので、グリーン対策課には、我々が提案したルートにおける道の地権者の確認や、掲載の許可取りをしていただきました。実施成果は、これらの情報を一枚のマップに掲載しております。工夫した点は、1つ目が橋と橋の距離の掲載です。約20キロ程度のルートの中に35の橋がかかっているというのは増田川の特徴の一つだと考え、歩く上でランドマークとして橋を設定し、名前もすべて確認した上で距離を算出して掲載しています。2つ目は、ルート流域の興味についての情報です。四角い枠のイラストが実際に歩くときに見る事が出来る風景をイラストにしたものです。例えば、熊野神社のお社を書くのではなくて、実際に歩いている時に、山の中腹に赤い建物が見えるのですが、あれは何だろう?と思った時に照らし合わせて見ることができるよう、このような形にしています。最後3つ目ですが、大規模修繕前の増田川の流路を掲載していることです。増田川は1960年代と90年代に洪水を引き起こしており、国土地理院のホームページを見ると当時の航空写真を見ることが出来ます。当時の流路は今公園や道路になって、実際に歩くことが出来る場所もあります。そういった観点からも、歩きながら名取市の歴史を学び、楽しんでいただけたらと思います。今後の展望といたしまして、我々が管理しているトレイルセンターには歩くことが好きな方が大勢いらっしゃいますので、そういう方にマップをお配りして増田川の沿線を歩いていただけたらと思っています。また、市内の観光協会や体育協会とのイベント時に活用したり、仙台空港鉄道から駅を発着するイベントであれば、駅構内の会議室の使用許可をいただいていますので、そういったイベントにマップを活用したいと考えております。

<質疑応答>

委員:マップを見て大変素晴らしいと感動しています。グリーン対策課とはどのように繋がっているのですか。

協働する課:みちのく潮風トレイルの業務で関わっております。

団体:グリーン対策課がみちのく潮風トレイルやトレイルセンターの業務を担当しています。

委員:マップを作って終わりではなくて、その後の使い方の企画をされているということで非常に良い活動になったと思います。マップの本質とは違う観点になるかもしれませんが、下流の方は左岸を

歩き、中流域あたりから右岸を歩くことになっていますが、どちらを歩くか決める時の考え方や着眼点があったのでしょうか。

団体：出来る限り一本道で歩いた方が歩く方のストレスなく歩けるということで考えました。中流から下流にかけては、ゴールが左岸にあるので左岸に設定し、上流が右岸になっているのは、舗装路が少なく、砂利道や土のところを歩くように設定し、なるべくコンクリートは避けました。

委員：地域団体や関係する方の意見が取り入れられ、多くの情報をコンパクトに見やすく、楽しさを感じる形に仕上がっているのは、団体の皆さんの日頃の取り組みやデザイン性などが活かされていると思いました。この企画の枠組み以上の労力や時間を費やされて仕上がったと感じています。

〈以下、非公開〉

(2) 平成31年度採択(令和3年度実施)名取市協働提案事業評価審査

(3) 名取市協働提案事業担い手育成型(入門コース)採択審査

6 その他

7 閉会

令和 4 年 7 月 25 日

委員長 秋月 高太郎



